



菊池川の環境を調べました

学校のすぐ横を流れている菊池川に行って、どんな川なのかを調べてきました。それから、大浜の人は菊池川とどんな関わりをもってきたのかなと考えて、潮がひいた川に入ってみることにしました。

川遊び

川には、小さな魚やはぜ・カニなどがたくさんいました。網で魚を捕ったり、カニを捕まえたりして観察しました。



学校近くの砂浜で、大浜町の歴史と文化を伝承する会の戸嵩さんに昔の地図を見せてもらい、昔と今との違いを話してもらいました。

学校があるところは、昔は川だったんだ。

こんなことを学びました

菊池川はどんな働きをしているのかな？

菊池川は、昔とどう変わったんだろう？

川の中が泥だったり砂だったりするのはどうしてだろう？

どんな生き物がいるんだろう？



生き物の学習

熊本県希少野生動植物検討委員会の方をお招きし、菊池川の動植物について話していただきました。



今日紹介した他にも、菊池川にはたくさんの生き物がいます。しかし、**絶滅したものやその危機にあるものもいます。**

川で遊んだときには、3種類しか見つけられなかったけど、こんなにたくさんの生き物があるなんて知らなかった。

図鑑やテレビで見たことがある生き物もいたけど、自分で見つけてみたい。



菊池川の歴史

戸寄さんと一緒に菊池川に行き、昔の様子を話してもらいました。橋の横に江戸時代の事を書いた掲示板があり、話を聞いたりして昔の事を知ることが出来ました。



土砂がたまり川底が浅くなった事から、舟が高瀬の港まで行くのが大変になったので、江戸時代後期には、大浜は交易の町として発展しました。

これは「石はね」と言っていて、堤防を守るために石を組んで水の流れを調整していました。

この近くには、「石はね」が20以上あるんだって。



柱には廻船問屋や集散荷問屋などの名前が書いてありました。



13 栄喜丸跡

このあたりには〇〇屋や△△丸と呼ばれる廻船問屋や船主等の建物がたくさんあって、大浜町が交易で栄えていたと書いてありました。

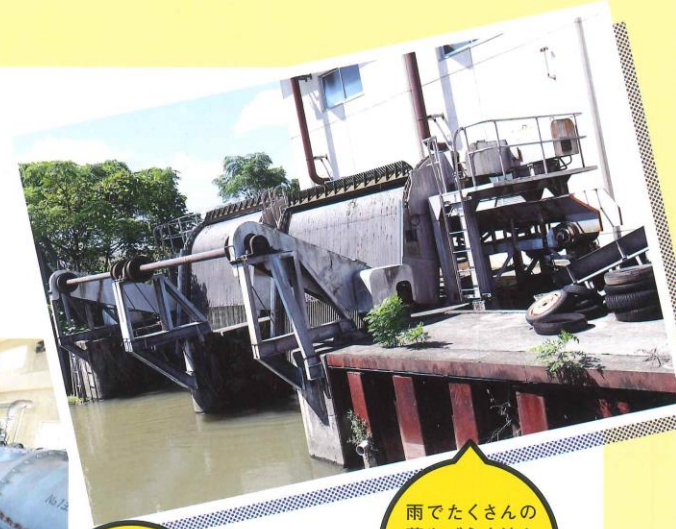
平成29年に堤防工事が行われ、船着場を示す標識(灯台)をもとの形のまま、ここに移したそうです。

大浜が交易で栄えていたころはどんな町だったのかな？



排水機場見学

大雨等で水位が上がったときに活躍する、排水機を見学しました。



すごい音だ。これならたくさんのお水を排出できそうだ。

雨でたくさんのお草やゴミも流れてくるから、これで取り除くのか。

国土交通省菊池川河川事務所の方の話

上流のきれいな水も、流れてくるうちに汚れてしまいます。少しでもきれいな水にしたいですね。



九州の一級河川20河川の中で、菊池川は10番目に長い川ですが、生き物の種類は2番目に多く、生き物にとって住みやすい川です。

上流の水はやっぱり透明できれいだ。学校の横の水は、横からだと透明に見えるけど、上から見ると意外と汚れていることが分かる。





大浜で始まった海苔養殖

大浜小学校の校長であった早野義章先生は、人々の生活を良くしようと思い海苔の養殖をはじめたそうです。先生がどのようにして海苔の養殖をはじめたのかを調べました。随分苦労して海苔の養殖が出来るようになり、いま私たちが食べている美味しい海苔が出来るようになったそうです。

「海苔養殖の父」早野義章



小作農民として、米作りをしていた人々の暮らしは貧しいものでした。義章は、人々の暮らしを少しでもよくするために水産業（海苔養殖）を始めようとしてきました。人々を説得し、私財を投じて海苔養殖の実験を行いました。しかし、不作が続きました。しかし、数名の教え子たちが義章を信じ養殖を続け、ついに成功に至りました。その後、大浜・滑石のほとんどの家が海苔養殖をするほど盛んになり、人々の暮らしも豊かになっていきました。

菊池川下流のところが海苔の養殖にあっている事を調べたり、養殖を始めたりして、早野義章さんはすごいと思いました。

義章さんは、みんなの暮らしをよくするために、一生懸命がんばったから、教え子の人たちも一緒に協力したんだろう。



早野義章 年表

- 1862年… 大浜町に生まれる。
- 1880年… 大浜小学校の先生になる。
- 1894年… 大浜小学校校長をやめる。海苔の養殖の実験を始める。
- 1900年… 干潟の調査をする。
- 1901年… 海苔の養殖を始める。
- 1902年… 海苔の養殖に成功し、「玉名海苔」として、東京、大阪へ初めて出荷され、注目を集める。
- 1907年… 海苔水産組合をつくる。
- 1932年… 1月4日、71歳で亡くなる。

海苔加工工場見学

大浜の海苔養殖の事を調べに行ってきました。大浜の港に行き、海苔摘みの船の様子や海苔の加工工場を見学しました。



海苔乾燥施設（工場）と大浜の港



朝早くから海苔を収穫し、工場加工してもらえるので、いつもおいしい海苔を食べられていることに感謝したいです。



海苔をつみとる船

船いっぱい海苔がのっている。一度にこんなにたくさんの海苔が採れるのか。



触ってみると、思ったよりも大きくて、重い。いつも食べている海苔とは全然違う。



3,600枚入りのダンボール箱と100枚の海苔

すごい速さで海苔が出来あがっている。最後は100枚一束に結ばれ出てきたよ。

1日に24万枚も海苔が作られ、熊本県の大浜の海苔だけが大阪や東京に運ばれることを知り驚きました。



一箱に3,600枚ずつ海苔が入っています。この海苔は、東京まで運ばれます。明後日には東京に着きます。

生海苔から乾燥海苔に加工する機械

ふりかえり

菊池川の生き物の種類

エビ(カニ類)・ハクモウシヤ・オキナ・シマメ
アサハラカ・ペンケイ打ニ・ハネガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ
アサガニ・アサガニ・アサガニ・アサガニ

生き物新聞

魚アイズ!? 汽水-海水編
① ポンパサナ...
② カキ...
③ アイナメ...
④ アサガニ...
⑤ アサガニ...
⑥ アサガニ...
⑦ アサガニ...
⑧ アサガニ...
⑨ アサガニ...
⑩ アサガニ...

菊池川流域や大浜町の人たちが、川や海をきれいにしていることを知って、ぼくも水を汚さないようにしようと思いました。

ここから大坂まで船で米を運んでいたため、菊池川は交通にも役立っていたことを知りました。

菊池川の生き物 音書き

模写 音書き 海獣 音書き

① オナガガ ② オナガガ
③ オナガガ ④ オナガガ
⑤ オナガガ ⑥ オナガガ
⑦ オナガガ ⑧ オナガガ
⑨ オナガガ ⑩ オナガガ

菊池川にたくさんの生き物がいることを知り、他の川にはどのような生き物がいるか調べたいと思いました。

歴史

菊池川の清正の歴史
大浜の歴史
大浜の歴史
大浜の歴史

大浜小学校校歌

作詞 猿渡幸男
作曲 古城秀雄

一 平和の光 身にあびて
仰ぐ二ノ岳 三ノ岳
若くは 命の輝き 高くあがり
希望の歌も 高くあがり
楽しい歌も 高くあがり
大浜小学校
大浜小学校

二 菊池の流れた 水清く
世に散れ 散れ 散れ
仲よく強く 強く 強く
伸びゆく 伸びゆく 伸びゆく
大浜小学校
大浜小学校

三 栄える町に はつらつと
磨く文化を 磨く文化を
花咲く丘を 花咲く丘を
輝く輝く 輝く輝く
大浜小学校
大浜小学校

菊池川河口に位置する玉名市大浜町は、江戸時代中期から末期にかけて菊池川流域で収穫された米の積出港として発展してきました。また、大浜小学校校長であった早野善義氏が私財を投じ海苔養殖に着手、一つの産業に育てあげたのも菊池川河口に位置すること大浜町です。いま海苔養殖は、大浜町ほとり有明海沿岸4県の主要産業の一つとなっています。その様ことから、小学校5年生の子供たちが、大浜町の歴史や伝統・文化について調べ、その事を広くみんなに知ってもらうという目標を掲げ、「菊池川の流れを調べよう・大浜で始まった海苔養殖」というタイトルのもと、令和2年の1年のあいた、地域の方々の説明を聞いたり、菊池川下流域から有明海まで出向き、様々な施設や歴史的史跡を見学するなどの活動を行ってまいりました。このリーフレットは、その時の様子や子供たちの発言・感想とともに、この活動を支援して下さった方々の様子を取り纏めたものです。

発行：菊池川流域の恵み体験協議会
資料提供・協力者：国土交通省九州整備局菊池川河川事務所、玉名市、玉名市立歴史博物館このほか、JF大浜、大浜町の歴史と文化を伝承する会、松井栄司、木山義人、戸島孝行
編集者：前田大輔、坂田さおり
本リーフレットは農林水産省の支援を受け作成しました。
印刷：株式会社 有明印刷
熊本県玉名市寺田123-1 TEL：0968-73-2055